

海洋生分解性プラスチックの評価手法の標準化に取り組んでいます。

海洋に流出するプラスチックの抑制が世界的な課題となっている中、海洋で生分解するプラスチックの普及促進に大きな期待が寄せられています。海洋で生分解するプラスチック製品を市場に導入するためには、その製品が海洋環境中で比較的短期間で生分解すること、分解途中で有害物を放出しないことを確かめる必要があります。これらの評価手法については、ISO (International Organization for Standardization、国際標準化機構) で議論され、順次規格化されています。当協会は以前より ISO での関連規格の審議に参加し、より良い規格づくりに貢献しています。

海洋関連の評価手法に関しては、既に数件の他国提案の規格が成立しています。しかしながら、現状の評価手法では、試験結果のばらつきが大きく、また評価に最大 2 年を要する等、課題も多いのが現状です。そこで当協会では、各試験機関や会員企業と連携し、経済産業省、日本規格協会の支援を受け、より良い評価手法の開発に取り組み始めました。具体的には、2019 年度に設立された「海洋生分解性プラスチックの標準化に関わる検討委員会」を発展させ、今年度からは「海洋生分解性プラスチック・国際標準化委員会」として 3 年計画で活動しています。本活動において、2022 年度中に ISO への新規提案を目指しています。

※本活動は 2019 年に策定された「海洋生分解性プラスチック開発・導入普及ロードマップ」の一環として位置づけられています。

外部リンク：

1) 海洋生分解性プラスチック開発・導入普及ロードマップの策定（経済産業省）

<https://www.meti.go.jp/press/2019/05/20190507002/20190507002.html>

以上